平成２９年度　第４回　古賀市健康づくり推進協議会
意見要旨

日　時：平成３０年３月１３日（火）　１９：００～２１：００
場　所：サンコスモ古賀２階　２０１・２０２会議室

＜出席者＞

（委員長）	堤　啓	粕屋医師会
（副委員長）	福岡　綱二郎	粕屋歯科医師会
	松尾　和枝	福岡女学院看護大学　教授
	江口　泰正	産業医科大学　産業保健学部　人間情報科学　准教授
	有田　尚彦	古賀市内高等学校（古賀竟成館高等学校　校長）
	藤原　美喜子	古賀市保育所（園）連盟（鹿部保育所　所長）
	井手野　りつ子	古賀市食生活改善推進会　会長
	大森　睦子	古賀市スポーツ推進委員　代表
	國嵜　和子	古賀市健康づくり推進員　リーダー
	田中　雅文	クロスパルこが　支配人（コナミスポーツクラブ）
	岡林　寛	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター　統括診療部長
	三好　惠美子	中村学園大学栄養科学部栄養科学科　非常勤講師

＜欠席者＞

藤井　博文	古賀市商工会（㈱増田桐箱店）
平野　昌数	古賀市小中学校校長会（花見小学校　校長）

＜事務局＞

古賀市保健福祉部　予防健診課

＜配布資料＞

・次第
・委員名簿
・ヘルスアップぷらん　～古賀市健康増進計画（第二次）・食育推進計画～　（案）
・パブリック・コメント実施結果
・健康チャレンジ 10 か条推進プロジェクト（資料１）
・古賀市・健康生活のための　ココロへ１０（テン）プロジェクト
　～職域対抗　歩く王（あるくおう）　決定戦！～について（資料２）

◇議事要旨

１．保健福祉部長あいさつ

○青谷部長

２．古賀市健康増進計画（第二次）・食育推進計画（案）について

○事務局

（古賀市健康増進計画（第二次）・食育推進計画（2018 年度～2023 年度）（案）パブリック・コメント実施結果について説明した。）

７７ページ「健康測定の経験がある人」について「公民館や市のイベントで骨密度など健康測定を受けたことがある人の割合」に修正する。

７８～７９ページの計画策定に向けた主体間関係とネットワークに関する記載について、「市民活動団体」「ソーシャルサポート」を追加する。

章構成について、第５章を３項目（「１．次世代の健康づくり」「２．高齢者の健康づくり」「３．健康づくりの推進に向けた人材育成と地域づくり」に修正する。

○委員

番号５の意見の中に「情勢」とあるが「醸成」の間違いではないか。

○事務局

意見提出者の間違いと思われる。

３．次年度以降の健康チャレンジ１０か条推進について

○事務局

（資料１について説明した。）

次年度以降は市民力及び組織力を活用して進めていきたい。

○委員

関係機関（団体）について、具体的にわからない。

○事務局

基本的には同じものだと考えている。現在はそれぞれが活動しており、他の団体に知られていないなどの状況がある。これに横の繋がりを持たせ、見える化していきたいと考えている。

○委員

構成員について、企業関係とあるが、企業内での活動と企業外での活動は位置付けが違うと考える。

○委員

いつ頃から具体的に始めるつもりか。

○事務局

５月か６月には組織を作りたい。

○委員

①目的に構成員のことが出てくるのには違和感がある。構成員については②構成員の項目にまとめるなど再考頂きたい。

４．その他

○事務局

（資料２について説明した。）

企業側から、１０か条のプレ実験として何かできないか、と提案があり、実現したものである。今回はあくまでプレ実験であるが、今後も同様な取り組みを続けていけないか話し合っているところである。

○委員

「ココロ」の意味は何か。

○事務局

「心へ届け」「心得て欲しい」という意味合いである。

○委員

企業側からの反応はどうか。

○事務局

古賀市も参加しているが、職員の話によると１日１万歩歩こう、ウォーキングイベントに参加しようと声を掛け合っているようである。

企業側についても、同様な声があがっていると聞いている。

○委員

今回の取組みは、市が主導しているのか、企業が主導しているのか。

主催は実行委員会であり、市や企業、ＨＡＭＩＱで組織している。ただ、どこかが主導というよりも全体で取り組んでいるイメージである。現時点では、予算については国の予算に頼っている。

○委員

「健康経営」とは新たな取り組みであると思うが、具体的な特徴は何か。

○事務局

今回の取組みのポイントは、社長・工場長といった経営者にも参加してもらっていることである。経営者が参加することで、企業に「健康経営」ということに気づいてもらいたいという狙いもある。

○委員

昨今「健康経営」について様々な議論がなされており、大企業から中小企業まで広がっている。認定制度などもあり、融資を受けやすくなるなど、また、社員が健康であれば生産性も上がるなど、企業側のメリットもある。

○委員

終了後の取組み予定はあるか。

○事務局

取組前後の変化について、分析してもらいたいと考えている。また、結果を踏まえた表彰式も行う。

○委員

参加者から多少なりにお金を集め、優秀者にプレゼントなどしてはどうか。

○委員

マイレージ制度など行っているところはたくさんある。ただ、お金や賞品が目当てになると長続きしないので、注意が必要である。うまく競争させるような取り組みが望ましい。

○事務局

今回はクロスパル古賀さんに協力頂き、平日夜間の利用を無料とするなどの協力を頂いた。今回の取組み終了後、参加者がクロスパルを利用するようになってもらえれば、と考えている。

○委員
　古賀市にはスポーツクラブは他にもあると思うが、施設数を増やすなどの考えはないか。
○事務局
　現時点では考えていない。
○事務局
　健康チャレンジ１０か条を「ココロへ１０（テン）」という言葉を使って広めていきたいと考えているが、委員の皆さんのご意見はどうか。
○委員
　どんどんやってみるのがいいのではないか。まずは取り組むことが大切だと思う。
○事務局
　１００人ワークショップにも参加頂いた、國嵜委員、井手野委員、大森委員に特に意見を伺いたい。
○委員
　健康チャレンジ１０か条の方がわかりやすい。
○委員
　中小企業となると、法令順守に精一杯で「健康経営」まで手が回らないと思う。そのような企業も支援できることが必要だと思う。
○委員
　まずは取り組み易い方法を考えることだ必要で、まずやってみることが大切だと思う。
○委員
　健康チャレンジ１０か条のパンフレットなどはあるのか。
○事務局
　計画書には１０か条のチェックリストなど掲載しており、概要版にも掲載する。まずはこれを活用してもらいたい。
○委員
　１０か条＝ココロへ１０でなくてもいいのではないか。プロジェクトとしては「ココロへ１０」とし、具体的には健康チャレンジ１０か条というのもいいと考えている。
○委員
　取り組みを継続させるノウハウとして、事務局で何か把握していることはあるか。
○事務局
　人材育成と地域づくりが必要と考えている。また、「無理をしない」というのが取り組みを長続きさせるために大切だと考えている。
○委員
　日常に入り込むような、地域ぐるみの取り組みも必要だと思う。
○委員
　地域活動に取り組む人は認知症になりにくいという研究結果もある。